

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追求した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

今回は、宮崎県を代表するこれらの作家の作品を紹介するとともに、「春の息吹」をテーマとしたコーナー展示も行います。本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886～1954	少女	不明	39.0×27.0	素描
2	塩月 桃甫	1886～1954	作品 3	不明	24.9×35.4	素描
3	塩月 桃甫	1886～1954	風景	不明	27.7×39.8	素描
4	塩月 桃甫	1886～1954	舞子	1949(昭和24)	33.3×24.0	油彩
5	塩月 桃甫	1886～1954	花	1950(昭和25)	33.4×24.0	油彩
6	山田 新一	1899～1991	椅子に凭るY嬢	1929(昭和4)	54.6×45.5	油彩
7	山田 新一	1899～1991	フランソワーズ	1983(昭和58)	91.0×65.3	油彩
8	山田 新一	1899～1991	フィレンツェの丘	1964(昭和39)	65.1×50.0	油彩
9	雨田 正	1914～1995	早春	1971(昭和46)	49.9×65.1	水彩
10	吉田 敏	1915～1965	花	1953(昭和28)頃	27.4×38.5	水彩
11	山内 多門	1878～1932	雨三題	1918(大正7)	各229.5×101.5	日本画
12	益田 玉城	1881～1955	花盛り	不明	130.4×51.0	日本画
13	益田 玉城	1881～1955	題不明	不明	128.8×42.0	日本画
14	岩下 資治	1908～1989	採花	1983(昭和58)	162.1×130.5	油彩
15	中澤 弘光	1874～1964	早春	1908(明治41)	50.0×60.5	油彩
16	津田 雄一郎	1923～1994	花競う	1953(昭和28)	65.0×72.7	油彩
17	小野 彦三郎	1912～1971	蔵王(桜)	不明	41.0×53.0	油彩
18	小野 彦三郎	1912～1971	吉野	不明	72.7×53.0	油彩
19	戸川 ふみ子	1910～2001	さくら・たいせつ	1981(昭和56)	112.2×145.7	油彩